

【3】正月の地震

本年、2024年は縁起でも無いのですが、地震で始まりました。

近年のわが国では、平成7年（1995）の奇しくも1月の阪神淡路大震災以来、各地で頻繁に地震が発生するようになりました。

次の大地震は、太平洋岸の南海トラフに発生する南海地震であろうと予想される中で、裏をかくように日本海側の石川県能登半島で、局地的ですが震度7の強い地震が発生したのです。

亡くなられた240人以上の方々に哀悼の意を表すとともに、多くの負傷者、そして延べ数万戸に達する建物の損傷や倒壊により、今なお避難生活を余儀なくされている多くの方々にお見舞いを申し上げます。

遠くからTVや新聞の情報で知るしか無いので、当事者でない気楽な意見であることを承知で申し上げるのですが、多くの方々が救助・復旧に携わっておられるにも係らず、現地の緊迫感、危機感が伝わってこないことを残念に思いました。

海岸や山地が入り乱れる地形で、多くの土砂崩壊が発生し、道路交通が壊滅し、海岸隆起で港が使用不可能になるなど困難な状況下で、人員救助や道路の復旧に不眠不休で頑張っている関係者の努力に感謝し、住民の方々が一刻も早く元の生活に戻れるよう気持ちだけでも応援する次第です。

限られた情報の下で、土木屋としての感想をいくつか述べさせていただきます。

（1）被害の大きかった一因に、多数の木造2階建住宅の倒壊があります。近年、建築基準法の耐震規定の強化もあり、木造建築の耐震性が大巾に向上しているはずなのに、能登地域は古典的な屋根の重い住宅が多かったのでしょうか、意外な感じがしました。

（2）海岸地帯が最高4mも隆起し、国土面積が約4km²増えたいことは“嬉しい”のですが、漁港が浅くなったり、干上がったたりして使用不能になるというのは珍しい災害です。100年前の関東大震災で海岸が隆起したという知識はありましたが、やはり現実に関わり得るのですね。

（3）今回被災した能登地域で一番人口の多い七尾市は48000人で、これに人的被害の大きい輪島市、珠洲市、穴水町、能登町、志賀町の人口を合わせても13万人に届きません。この100倍の1400万人の人口を擁する東京都、そして埼玉、神奈川、千葉3県も含めると3700万人の東京都市圏ともいべき人口密集地が、震度7の地震に見舞われたときのことを想像するのが恐ろしくなりました。